

**【長期総合計画 庁内検討委員会 専門部会からの意見】**

橋 本 市

## 1. 概要

長期総合計画庁内検討委員会専門部会において、「資料1：基本構想の検討」に関して下記の項目について意見を聴取した。

### 【対象：庁内検討委員会 専門部会】

- ・ニューリーダーによるプロジェクト組織（ニューリーダー部会） 職員 10名
- ・女性の視点で参画するプロジェクト組織（さつき部会） 職員 13名

### 【意見項目】

- 1.行政からみた橋本市の課題
- 2.橋本市のまちづくりの基本理念
- 3.橋本市の将来像としてふさわしい言葉
- 4.その他意見等（自由記載）

## 2. 意見

### 【項目1】 行政からみた橋本市の課題について

73件の意見が出されている。複数の事柄に跨る意見がほとんどであるが、大きく分類すると、市民協働に関するものが25件、情報共有に関するものが12件あり、これらの意見が半数以上となっている。これらから、「橋本市の課題」は「市民協働」や「情報共有」についての部分が大きいと捉えられている、と考えられる。

#### 〈意見一覧〉

項目	意見
市民協働に関する課題	ボランティア支援について、行政を含め関係機関の連携不足。
	行政が手厚い対応になると、ご近所で話し合わなくても個人対行政で個別に解決してしまい、ひいては地域力が弱くなっている。
	若い世代に引き継がせるコーディネーターの養成が必要。
	若い市民は橋本市にどれだけ愛着を持っているか。
	地域と行政や関係機関とのコーディネートできる人材の発見、育成。
	何事も行政主体でやりすぎる。
	市民と行政の距離感がある。（相手を知らなければ、お互いに身構えたまま。）距離を縮めるような事業の実施方法が必要。
	行政と区の関係性を見直す必要がある。
	市民自身が「やりたい！」という意識を持ち続けてもらえるような仕組み作りをしていかなければならない。
	市長の重要施策にもあるが、市民協働を進めようとしていても、大半の市民は市政に興味を持っていないように感じられる。
	市民力を高める。
	地域の課題把握と、地域課題解決を関係団体が相互に協力できるような仕組みをつくる。
	日常生活を支える分野において、共助の精神で活動する「新しい公共」の必要性。
区、自治会の組織強化、行事活動の情報共有、連携強化。	

	各種行事の見直しを実施し、橋本市民祭（期間も設定）の開催。
	自立と支え合いを目指した地域づくり。
	市民による自助および共助の強化のための学習。
	多くの市民が市政に関わっているという意識がない。（直接的なわかりやすい関わるきっかけがもてない？）
	新たな市民活動を実施することができる施策の充実。
	趣味や関心があることなら市民は参加しやすいので、その入り口を行政が導くようにする。
	市民の行政に対する関心が低いのでは。特に若年層（20～30代）に感じられる。
	市民に、自分で助けを呼ぶ力、声をあげる力をつけてもらう必要がある。
	「誰か又は市がやってくれる」の意識改革。まちづくりは、昔から自助、互助、共助、公助を基に成り立っている。人口減少、高齢化の進行、生活スタイルや家族構成の多種多様化に伴い、個々の意識が希薄となり役割のバランスが計りづらくなっているように思われる。行政として、財政状況を踏まえ、身の丈に合った制度しか行えないという現状を住民に示し、いかに自助（個々の生活力）や互助が必要であるかを再認識してもらう必要がある。
	協働する市民などが持てる力を最大限に発揮できるよう関係機関の連携を強化。
	社会福祉協議会の位置づけと関係機関との連携。
情報共有・発信に関する課題	行政と市民の情報共有。
	市民の当事者意識の涵養。
	行政について詳しくない人からの意見を反映させすぎると、提供している既存のサービスが持続可能ではなくなってしまう。そのため、市民にもっと学習・理解してもらうために情報を共有していく必要がある。さらに、市民に消費者意識・当事者意識・行政ではなく自分たちが運営しているという意識、を持ってもらう必要がある。
	市の施策に関する学習機会の提供。
	市民は「市の財政が厳しい」というのはざっくりと分かっているが、具体的にどこのサービスは削っても大丈夫で、どこがどれだけの費用が必要というところまでは理解できていない。
	市民ニーズを的確に把握しているか？把握する術はもっているのか？
	政策形成過程、財政状況などをわかりやすく情報提供する。また、オープンデータ化を図る。
	市民自身も、「自分の足で自分の力で情報を取りに行かなければならない」という気持ちはあるが、自分の力で行ける範囲に情報がないのがネックとなっている。
	サービスにタダはないということを市民の人に理解してほしい（このことを理解できていないがために、税金を払わない、払いたくない、何に使われているかわからない、という意識にもつながっているように感じる）。
	窓口対応をしている中で、「誰も教えてくれなかった、言ってくれなかった」「そちら側から連絡がなかった」といわれることが多くあり、自分から能動的に動かず受け身の体制で待っている人が多い印象を受ける。行政側から働きかけるべきであり、自分からアクションを起こす必要はないという意識があるように感じる。もう少し、能動的に動く考える力を備えていただく必要があると思う。
	情報発信の連携、強化。
	和歌山県の玄関口としてPRを強化。

行政運営に関する課題	中途半端に今の予算等でできるところだけするのでトータルコーディネートできていない。
	手厚すぎるサービス。
	人口減少、財政難であるがサービスはそのまま。
	市民サービスが厚すぎる結果、財政難に陥っている。
	職員一丸となっていない。
	専門家の意見や力が必要なことも、職員の力に頼るので、ある一定のところまでできるが飛び抜けることができない。
	橋本市だけで解決するのではなく近隣市町村とも連携してサービスを提供できないか。
	その場しのぎの政策の実施が多いのでは。流行に流され、その時の大衆受けを狙うのではなく、実施する政策が将来の橋本市にどのような影響を及ぼすのか考え、実現したい街づくりを意図した政策形成があまりみえない。
	相談業務をより充実するためには、横断的に業務に関わることができる体制づくり。
	行政改革や財政健全化は本計画以前の課題であると思います。
子育てに関する課題	子育てに関して、地域の人に支援の業務を担ってもらえれば、地域のことを地域で助け合う構図ができる。ただ、個人情報がある限り委託できる業務に限界がある。
	駅前に託児所があると、もっと女性も働きやすい。定住促進の強みにもなる。幼稚園と連携して、バスが回ってきて託児所から幼稚園に行けるとすごく便利。林間のフォレスト内や、南海電鉄と交渉してみては？
	民間団体・市民団体を活用した多様な形態の保育による子育て世代への支援。
	こどもの一番手がかかる時期は手厚くサポート、こどもが大きくなるにつれ少しずつサービスを縮小させていった方がいいのではないか。中学生医療費等は縮小させていいのではないか？入院時のみでいいと思う。
	こども医療などのサービスの見直し、心身の健康づくりにつながるコミュニティ活動の強化（こども食堂など）。
	予防する施策を充実させる必要がある。望まない妊娠や家庭環境についてなど、流れとして教育の中に盛り込み、息を長く、点としてではなく線として行っていく必要がある。
	女性応援、子育て支援の隠れたニーズを大切に。
定住・雇用に関する課題	子育て、教育の充実をさらに進めることが課題である。
	企業誘致および既存企業の育成による雇用の創出。
	大阪市内への通勤範囲内であること、子育てや福祉サービスの充実、緑の多い環境等、橋本市は定住に向いている面も多い。一方、地元の産業や雇用は少なく、また大学等もなく、橋本市で生まれ育った若者が就職や進学により離れていくことも事実。ひとがまちをつくり、まちがひとのくらしを支える。まずは人がいないことには、何も始まらない。定住するための最低条件である就業の場の確保は必要不可欠と考える。また、通勤圏内に仕事を持ち定住先を探している方に、橋本市を選んでもらえるよう、住みやすさを上手にアピールすることや、惹きつけるサービスを創出することが必要。
	全国的な地方の人口減少問題を抱える中で、まずは仕事づくり、働ける場の確保が一番の課題であると思う。流出する人口を最小限にとどめる施策の充実を図るための計画を中心において考えていくべきであると思う。人が住んでこそそのまちであり、子育て教育、環境づくりはその人口推移の中で変化していくと思う。
	「多様な働き方やワークライフバランスの実現などに配慮し」とあるが、橋本市において、この部分は本当に課題としてあげなければならない部分なのか？

農業に関する課題	街中に住む人も、サラリーマンであっても、農業を学ぶ環境を整える。
	休耕田、耕作放棄地は、農業の衰退、災害防止機能の低下、景観の悪化、鳥獣被害等様々な悪影響を与える。しかしながら、農家の高齢化や担い手不足で休耕田、耕作放棄地は、今後大幅な増加が見込まれており、これらの対策は、本市にとって喫緊の課題である。 現在農林振興課で取り組んでいるが、市の最重要課題として下記事例のように人員、予算を投入し、大胆な取り組みが必要である。
	<p>■養父市の農業特区</p> <p>平成 26 年 5 月に中山間地農業の改革拠点として国家戦略特区に指定されて誕生した特区企業など新たな農業の担い手を呼び込み、農業を守るのが狙い。農地売買などの許認可権限を農業委員会から市に移して手続きを迅速化、融資制度の創設や農業生産法人の設立要件の緩和など</p> <p>ナカバヤシなどの企業が農地購入へ (H28.9.29 日本経済新聞)</p>
	農地の流動化を促す仕組みの構築、農地の集約化。
	農林業従事者の所得向上につながる施策の充実。
まちづくり(インフラ)に関する課題	駅を中心としたまちづくり。
	公共施設の見直し。
	橋本市の現状は、公共施設が郊外へ流れている事により、ランニングコストの高騰、市民の方々の利便性低下等、いろんな意味で負のスパイラルになっている。コンパクトシティを目標に、中心市街地開発事業の拠点でもある橋本駅中心に、違う手法を模索してでも、考えていく必要性を感じている。
	『紀の川』を生かした取り組みを強化。
	交通・環境・地理など優れた条件の中で発展してきている。
福祉に関する課題	少子高齢化が進む中で、財源的にもマンパワー的にも行政が市民の要望にすべて答えることができなくなっている。介護保険制度を持続可能性の高いものするためにも、誰もが住み慣れた地域で最後までいきいきと暮らせるよう、地域包括ケアシステムを市民と行政が協働して構築することが必要になっている。
	少子高齢化も関係していると思うが、孤立して社会と接点を持ってない(持たせる施策を市が率先して考えるべきかもしれないが) 高齢者が多く、子どもが市外へ出て行くなど、地域のつながりが薄くなってきている。
	地域支援者育成について、行政はじめ関係機関の協議、連携強化。
	要援護者の個別計画の作成や地域における情報共有と連携。
防災に関する課題	<p>●安全安心して生活できる環境づくり</p> <p>地震や風水害などの災害は、身の安全を脅かす大きな要因の一つとなります。</p> <p>今後、高い確率で発生が予想される南海トラフ地震や頻発する局地的な集中豪雨などの災害に加え、新たな感染症の発生など、災害の態様も多様化していく中で、人命と財産を守るため、市民、地域、行政がそれぞれの役割を踏まえ、危機管理能力を高める取り組みをともに進めていく必要があります。</p>
	移動手段の適正な確保、それが災害時にも生かせる仕組みをつくる。

## 【項目2】 橋本市のまちづくりの基本理念について

まちづくりの基本理念についての言葉や視点について、42件の意見が出されている。

「人」や「自分」という単語が多く見られる。また、「市民一人ひとりが主役のまち」や「みんなの力を活かせる」といった意見に見られるように、ここでも「市民協働」に関する視点が多く見られる。

### 〈言葉やフレーズ〉

- ・市民協働の地域づくりは人づくりから
- ・生涯学習による地域課題解決
- ・まちづくりは学習参画行動から始まる
- ・自分らしく過ごせるまちへ
- ・未来へ続いていく投資
- ・自分の力できり拓く
- ・顔を見合わせて話せる
- ・みんなの力を活かせる
- ・社会の変化に対応できる
- ・自分でできることが見つかるまちに
- ・ずっと住めるまちづくり
- ・魅力協力
- ・夢を叶える
- ・人が人をよぶ
- ・何事も自分のことととらえてまちづくりをする
- ・ともにつくるまち
- ・支えあうまちづくり
- ・主体的なまちづくり
- ・市民と行政の対等な関係性
- ・こころもくらしもゆたかなまち
- ・笑顔あふれる魅力的なまち
- ・市民協働
- ・助け合い
- ・見守り
- ・愛着
- ・生きがいづくり
- ・山や紀ノ川を生かす
- ・橋本力を高め
- ・橋本愛で結ぶまち
- ・市民一人ひとりが主役のまち
- ・誰もが安心して暮らしていくことができる地域社会
- ・市民と共に学び、考える将来に渡り持続可能な施策
- ・緑のある心地よい暮らし。子どもと共に育つまち。

〈基本理念の考え方や視点など〉

「市民が創り、育てるまち」「ライフステージに応じたサービス」「自己実現」等の思いを込めて。
助け合いは情報共有から！「市と市民」「高齢者と若者」の間で課題を共有する。
地域で暮らすすべての人が、互いの個性や立場を理解、尊重して助け合いながら暮らせること。
人が元気に暮らし、働ける、そして協力し合えるまちであること。
まちづくりに対する理念（安心、安全、良い環境、思いやりなど）は、一人一人が繋がっていくことで、より充実したものになると考えます。住民同士が交流することで、個々の問題をまずは地域や民間の力を借りて解決に努めることになれば、「お互い様」の意識が芽生えたり、地域自治が確立されたものになると思います。
京奈和自動車道や国道 371 号バイパスの開通によって、広域交通、交流拠点としてさらに飛躍できるまちづくりを目指す。→産業の振興や企業誘致など就労環境の充実、自然や歴史文化を活用した交流拠点の誘致。
子どもが、ふるさとを愛し、住み続けたいを思えるまちづくりを目指す。 →子育てや教育の充実、就労環境の充実
近所や地域で共に助け合えるまちづくりを目指す。 →地域コミュニティや共育コミュニティの充実、自治基本条例の策定
安全・安心のまちづくりを目指す。 →福祉、医療、防災の充実など

### 【項目3】 橋本市の将来像としてふさわしい言葉について

将来像としてふさわしい言葉として、40件の意見が出されている。

「やすらぎの街」「住み・営み・集う 水と緑と創造のまち はしもと」といった全体を包括したものもあるが、「仕事とプライベートの拠点のまちに」や「介護予防のまちづくり」といった具体的な項目に特化する言葉も出されている。また、「こころもからだも栄養満点」や「橋本市にかけてみませんか」といったキャッチフレーズ的なものも見られる。

#### 〈橋本市の将来像としてふさわしい言葉や意見〉

- ・豊かな自然・人の和
- ・こころ豊かなまちづくり
- ・主役は市民
- ・住みやすいまちに「自分が」変える
- ・市を創り出す人づくりからはじめていく
- ・今あるものを新しいものに活用する
- ・子どもも大人も市が成長するためのエンジンとなる
- ・住みやすいまちとして第二の居住地に
- ・高齢者が一人で住んでいても「このまちなら安心」というまちづくりを
- ・仕事とプライベートの拠点のまちに
- ・好きなことから輪をつなげる
- ・「やすらぎの街」
- ・子育てに安心・安全／老後の生活に安泰／保安、治安、安価・・・
- ・交わる
- ・集う
- ・心地よい
- ・未来が繋がるご縁
- ・こころもくらしもゆたかでゆとりがある
- ・市民ひとりひとりが主体的に活躍している
- ・住み続けたい、住んでみたい
- ・定住
- ・愛着
- ・充実
- ・安心安全
- ・健やか
- ・こころもからだも栄養満点
- ・橋本市にかけてみませんか
- ・一発逆転橋本市
- ・ピンチはチャンス
- ・橋本市は、あなたの充実したくらしを一生涯にわたり約束します
- ・市民の力が活きる、助け合い
- ・市民が好きになる橋本市
- ・市民協働で高める地域力、築くまちづくり



- ・世代を通じて共感できる「未来」を創造
  - ・介護予防のまちづくり
  - ・住み・営み・集う 水と緑と創造のまち はしもと
  - ・都心からは少し離れているが、大阪並みのサポートが受けられ、大阪にはない自然がたくさんある。
  - ・市民が「橋本市に住んでいてよかった」と思えるようなまちになれば（しなければ）、との思いを込めて。
  - ・「元気なまち橋本市」も良いが、何かプレッシャーを感じてしまう。
- 前回の将来像「時間豊かに流れ 暮らし潤う創造都市 橋本」のように、紀の川の流れも連想でき、やさしく、ゆっくり、おだやかな言葉が良い。

#### 【項目 4】 その他意見等（自由記載）

自由意見として 13 件の意見が出されている。  
長期総合計画全体に関わる意見が多く見られる。

##### 〈自由意見〉

1月21日の「高齢者がいきいきと暮らせるまちづくり」というテーマのワークショップに参加した中で、市民自身も「自分の足で外へ出て情報を得るようにしていくべき」という意見があった。
高齢者に関しては、自分の力で行ける範囲で情報をもらえると良い（掲示板を活用すべき）という意見もあった。
助け合いや地域でのつながりも大事だが、みんなでやりましょうでは結局みんなが「誰かがやってくれる」という意識になる。
自分ができること・自分にしかできないことなどを見つけられるようになれば、地域の中での自分の役割や必要性が明確になり、「地域に貢献しよう」という気持ちも芽生える。
弥生時代の頃から、奈良、河内、大阪港等からの土器や蛸壺が橋本市で発見されていることから、物が集まる場所だったと考えられる。江戸時代では、紀ノ川を上下する船を橋本に船改番所を置き、人も貨物も全部橋本で積み替えさせる継船制度を設けていた。
大阪から高野山へいく道、黒河道と京大阪道がある。黒河道は集落が少なくそのままの道が残っているため世界遺産登録されたが、京大阪道は昔から 8 割の人がこの道を通り高野へ行った、多くの人が行き交うことにより、道は崩れ整備するということを繰り返し、今も整備された道となっているため世界遺産登録はできないそう。
現在は、370 号線と国道 24 号線の交わる場所、昔から人が交わり、集うまち橋本市。
住民に厳しい現状を突きつける以上、職員の資質が問われることになると思う。住民との柔軟なコミュニケーションを計るためにも、役所内で横の繋がりが悪くならないよう意識せねば。
「自然が豊かで子育てに最適なまち」のシンボルとしての風景がほしいです！
類似団体内で、せめて中程度くらいまで戻れないと施策展開は難しい。市民に事実を公表して、ともに歩みながら新しい街を作るのが最善。市民の思いを裏切れない。財政不如意の中では、政策の取捨選択を行わないと、今後につなげていく政策は打てないと思います。
目指すべき将来像は理想的な都市であるかと思うが、まずは先 10 年間の長期総合計画であるので、現状の市財政を鑑みた計画にすべきであると思う。 数年先までの財政難の中で、新たなことを始めるのではなく、今ある市の資源を活かせるものであるほうが良い。
長期総合計画と言う事で、今の流れでの策定は理解も賛同も出来ますが、私としては何か目玉としてのアクセントが欲しい。これだけは、絶対実現するという何かを？考える視点とすれば、まず短所を補うか長所を伸ばすかの検討。言い方を変えれば、橋本市に何が足りないか？橋本市にどんな有利な条件が隠れているのか？と言った単純な発想から何かが視えてきそうに思います。
類似団体との比較にて客観的に分析することで、強い部分、弱い部分は確認できると思います。それを加味してからの政策だと思う。先のアンケート結果を受け、市民の思いを計画に反映されてはいかがでしょうか？